



平成 30 年 12 月 1 日
日乃出保育園



【感染症に要注意】

<特徴・症状>

「A 群β型溶連菌」が引き起こす急性咽頭炎のほか、扁桃炎、猩紅熱（しょうこうねつ）、急性糸球体腎炎、リウマチ熱など溶連菌感染で起きる病気はさまざまです。中でも子どもに多い急性咽頭炎は、通常の風邪よりも熱が高く、のどの粘膜が赤く腫れて強い痛みを伴うのが特徴であり、発疹や舌の表面に赤いブツブツができる「莓舌（いちごじた）」や舌の皮が剥がれるなど、さまざまな症状が現れます。扁桃腺が腫れて膿が溜まるのも典型的な症状です。また、合併症を引き起こしやすい細菌とも言われています。「冬季」「春～初夏」の年間 2 回の流行時期が見られます。

<大人が感染した場合>

大人は溶連菌に対する抗体を持っている人が多いため、感染しても子供のような症状が出ないことが多いようです。感染しても気づかない「無症状感染者」が多いのが特徴です。しかし、発症すると子供よりも症状が重かったり、重症化して死亡する割合が高いとされているので、溶連菌感染症の症状が出たら、すぐに医療機関を受診し治療を始めるようにしましょう。

<感染経路と潜伏期間>

溶連菌の主な感染経路は「飛沫感染」。患者の咳やくしゃみによって菌を含んだ唾液などの飛沫を吸い込むことで、呼吸器系に感染します。家庭や学校などの集団での感染が多く、中でも姉妹兄弟は最も感染しやすく約 50%、親子間では約 20%との統計があります。潜伏期間は 2～5 日で、多くの場合、発熱、咳、のどの痛みから発症します。

<予防法>

溶連菌は健康な状態の保菌者が多く、かつ他人に感染力を持っていることがわかっています。家庭内はもちろん人が多く集まる場所ではマスクを着用し、手洗い・うがいを徹底しましょう。もし溶連菌感染症にかかってしまった家族がいる場合は、同じコップや食器を使うことは避けましょう。

<対処・治療法>

溶連菌感染症はウイルス性の風邪と異なり、自然に治ることはありません。疑わしい症状が 2 日以上続く場合は、すぐに受診してください。治療には抗生物質を服用し、通常 2～3 日でのどの痛みが緩和され熱も下がります。ただし、完全に治すためには 1 週間から 10 日程度は薬を服用する必要があります。症状が良くなってきたからといって自己判断で服用を止めてしまうと再び溶連菌が増殖し、症状が悪化し急性糸球体炎やリウマチ熱などの合併症を引き起こすことがあります。医師に指示された期間、用法や容量、服用回数をしっかり守って内服を続けることが大切です。

【感染症の病気】

・インフルエンザ

インフルエンザウイルスに感染することによって起こる病気です。38 度以上の発熱、頭痛、関節痛、筋肉痛等全身の症状が突然現れます。国内では毎年約 1 千万人、約 10 人に 1 人が感染。主な感染経路は飛沫感染、接触感染です。

・ノロウイルス感染症

ノロウイルスによる感染性胃腸炎や食中毒は一年を通して発生していますが、特に冬季に流行します。手指や食品などを介して経口で感染し、ヒトの腸管で増殖。おう吐、下痢、腹痛などを起こします。

・ロタウイルス感染症

ロタウイルスによって引き起こされる急性の胃腸炎は、乳幼児期（0～6 歳）にかかりやすい病気です。ロタウイルスは感染力が強く、5 歳までの急性胃腸炎の入院患者のうち、40～50%前後はロタウイルスが原因といわれています。

・マイコプラズマ肺炎

マイコプラズマ肺炎は、「肺炎マイコプラズマ」という細菌に感染することによって起こる呼吸器感染症です。1 年を通じてもまれ、冬に増加する傾向があります。患者の咳のしぶきを吸い込んだり、患者と身近で接触したりすることにより感染するとされています。

感染は、どのように広がる？

